

新潟分子薬理学フォーラム 27

大学院特別講義

冠動脈疾患のリスク因子と薬物治療

講師 平山 篤志 教授

日本大学医学部内科学系循環器内科学分野

日時 平成 28 年 12 月 2 日 (金)

17:30 ~ 18:30

会場 第 3 講義室 (新潟大学医学部)

対象 研究者、教官、大学院生、学生、医師、会員各位

要旨

1950 年代の米国の国民病は心筋梗塞で、第二次世界大戦でなくなった将兵より心筋梗塞で死亡する米国民の方が多かった。重大な国家的危機と感じたときの政府は、冠動脈疾患撲滅のために様々な政策を打ち出した。世界的な疫学研究のバイブルとなった Framingham 研究がはじめられ、リスク因子という概念も提唱された。このリスク因子に対する介入研究が行われるようになり、禁煙、降圧、スタチンによるコレステロール低下などが明らかにされるようになった。これらの薬物治療の歴史を振り返りながら、その先に期待される効果について考えてみたい。

新潟大学薬理学カンファレンス

連絡先 新潟大学大学院医歯学総合研究科
薬理学分野 (医学部薬理学教室)

樋口 宗史

電話 025-227-2087